



唐沢山…藤原秀郷公の居城趾といわれる、深い歴史を持つ山

佐野市町会長連合会管外視察研修会実施！



会津若松市区長会との意見交換



管外視察研修会参加者

町会加入率9割超！ 会津若松市区長会視察研修

去る7月3日(水)・4日(木)、町会長連合会事業の一つ「管外視察研修会」を、厚木会長以下37人の町会長が参加し実施しました。この研修会は、地域環境や住民ニーズを把握し、それぞれの地域に発生する様々な課題に対処することが期待される町会長のスキル向上や、連携を深めることを目的に実施しているものです。

今回は、町会加入率が91.3%にも上る(佐野市は82.0%、栃木県平均64.7%)福島県会津若松市区長会を視察研修し、同会と次の4項目における市を含めた活動状況について意見を交換してきました。

(1)『町会加入促進』について、会津若松市区長会では「宅建協会・市・市区長会の三者が協定を結び、各不動産会社において賃貸借契約時に町内会加入を必須としている」「転入届時に、窓口において町内会加入促進チラシを配布している」ことなど。

(2)『町会での親睦事業や地域活性化』については、「町内会単位ではなく、小中学校区単位での広域的な取り組みを行っている」「地域で暮らす人を中心に、地域の暮らしを守るための取組を持続的に実践する地域運営組織の設

立、及び運営に対する支援を進めている」「補助金による金銭的な支援、及び地域おこし協力隊や集落支援員の配置等による人的な支援を行っている」ことなど。

(3)『自治会役員のみならず手不足問題』については、「同問題については多く耳にしているが、具体的な対応は行っていない。今後、市及び区長会と連携して町内会のあり方について検討していかなくてはと考えている」「若者が参加できる活動を実施し、その中で次の人材の掘り起こしを行うなどの助言や提案が必要と認識している」ことなど。

(4)『空き家への対応』については、「市は、市民から情報提供・相談等があれば、空地の草木の場合は環境生活課へ、空き家の場合は危機管理課(空き家対策担当課)、空き家のごみに関する場合は廃棄物対策課へつなぎ、個別に対応をしている」ことなど。

研修会後、厚木会長は「会津若松市区長会の取り組みは、本市の町会加入促進のために大変勉強になりました。また、同区長会会長さんとは『最も効果的な活動は、町会役員さん方の熱意ある取り組みに勝るものはない』との意見で一致しました」と感想を述べられました。



**令和6年度連合会
総会開かれる！**

5月21日(火)、田沼中央公民館にて「令和6年度佐野市町会長連合会総会」を開催しました。

総会には、139人の町会長が出席し、「令和5年度の事業報告と決算」「令和6年度の事業計画と予算」「連合会役員改選」について議案が提出され、慎重審議の上、全議案が承認されました。

総会での、佐野市町会長連合会厚木会長の挨拶は次のとおりです。



各町会長の皆さんも、少子高齢化による様々な影響を実感されている

と思います。

4月の新聞紙上で「2050年に、国内全世帯の44.3%が一人暮らしとなり、うち65歳以上の一人暮らしの割合が46.5%と半数近くを占め、平均世帯人員も1.92人と2人を割り込むこと。さらに、栃木県内では、若年女性人口の減少により県内25市町のうち減少率が高い8市町が『消滅可能性自治体』」として報じられました。

佐野市は14番目であり、足利市11番目・栃木市13番目と、両毛3市は消滅可能性がある自治体に近い状態

となっております。

原因の一つは、若い人の流出です。そのほとんどが、東京という大都市への流出です。

改めて佐野市の状況を見ると、昨年4月の人口11万4695人・世帯数5万2701世帯・1世帯当たり2.18人が、今年4月では、人口11万3498人・世帯数5万2887世帯・1世帯当たり2.15人となり、1年間で約1200人、1世帯当たり0.03人減少しています。

佐野市は、人口が減少する中で世帯数は増えており、核家族化の進捗による高齢者だけの世帯が増えている状況と言えます。この人口減少・高齢者世帯の増加は、空き家問題や町会の運営に大きな影響を及ぼしております。

高齢者の一人暮らしが多くなり、空き家が増加し、回覧が回りにくくなり、町会役員の仕事が増え、役員の成り手がいなくなる。町会加入者が減少し、運営資金が不足する等、負のスパイラルに突入してしまっています。自治体の消滅より先に、町会組織が崩壊しかねません。

連合会の行った町会長アンケートでは「近いうちに町会の運営が難しくなり、出来れば合併したい」と考えている町会が、全167町会のうち約4割の60町会以上ありました。

このため、連合会では「地域づくり

検討部会」にて5年にわたり「町会の統廃合」を検討してまいりましたが、町会統廃合には難しい課題が続出し、統廃合を住民にどのように理解してもらえるか、莫大な時間と労力が必要との結論になりました。

連合会といたしましても、引き続き皆様の町会の問題点を一緒に検討していきたいと考えておりますので、住み良い町会にするために協力しましょう。



町会長連合会総会

**町会長連合会
令和6年度の主な事業**

◇行政と町会について

行政と町会との協働体制がとれるように各行政機関及び地域担当職員とともに、課題に取り組んでまいります。

※地域担当職員とは、市民と行政との協働によるまちづくりを推進するため、地域担当として配置された市職員をいいます。

◇会報誌の作成

市民の皆さんに、町会に関する情報をお知らせするため、連合会会報編集部会で会報誌「町会長連合会だより『からさわ』」を作成し、年2回発行いたします。

◇町会課題の解決

連合会地域づくり検討部会において、町会課題の調査研究、及び解決策の検討を行っています。

◇その他

- ・ 全市一斉清掃
- ・ 町会長、町会役員を対象とした講演会
- ・ 町会長、町会役員永年表彰
- ・ 福祉、教育、文化団体の会議への参画
- ・ 栃木県自治連合会事業への参画等
- ・ 市が主催する各種事業への協力

町会は地域において様々な活動を担っています！

○安全・安心な暮らしを守る活動

自主防犯パトロール、自主防災組織、防犯灯の維持管理、交通安全活動など

○地域情報活動

回覧板や広報の配布による地域の情報伝達など

○地域福祉活動

子どもや高齢者の見守り活動など

連合会新副会長紹介

令和6年度佐野市町会長連合会総会にて役員の変更が行われ、連合会副会長に、宮本町会長の八下田謙次様が就任されました。

連合会副会長

(宮本町町会長)

八下田 謙次



本年度町会長連合会副会長に選任され、た、宮本町会長の八下田謙次と申します。

町会長に就任と同時に町会長連合会の副会長就任と、重責を担い責任を痛感しております。地元町会では会計、副会長を4年程経験し町会長に就任しました。

住み良い町づくりの為に貢献できるよつ微力ながら努力いたします。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

厚木会長が県自治会連合会副会長に就任

令和6年度栃木県自治会連合会総会にて役員の変更が行われ、『栃木県自治会連合会副会長』に、厚木健志佐野市町会長連合会会長が就任されました。

県自治会連合会長の任期は、令和6年度・7年度の2年間です。

新合地区土砂災害防災訓練実施！

(山形、梅園、閑馬下、閑馬上、下彦間下、下彦間上町会)

6月29日(土)、令和6年度新合地区土砂災害防災訓練が、新合総合センターにおいて開催されました。



AED操作訓練

○開催の経緯

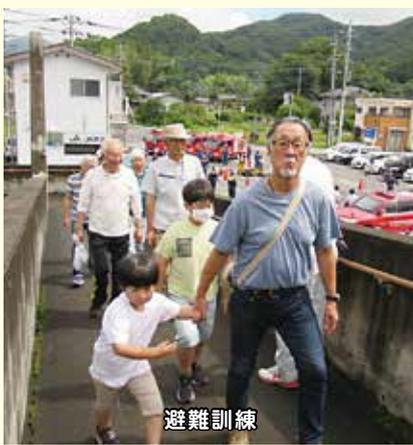
近年、地震や台風などにより、全国各地で土砂災害が多発し、多くの尊い人命が失われています。本市においても、地震や局所的な豪雨により、土砂災害の危険性は高まっています。

このような状況において、新合地区は、彦間川、閑馬川、梅園川沿いに開けた中山間地域で、多くの土砂災害警戒区域を抱え、土砂災害特別警戒区域もあることから、住民参加による実践的な訓練を通し、防災意識を高め、土砂災害発生時の被害軽減を図ることを目的として実施されたものです。

○避難訓練及び防災講習

当日は、「佐野市に局地的大雨が発生し『大雨警報』が発表され、続けて、新合地区に『土砂災害警戒情報』が発表されたことから、土砂災害発生危険が高まっている新合地区6町会に対して、『警戒レベル3高齢者等避難』が発令された。さらに、大規模な災害発生が予想されるため、同地区に対して『警戒レベル4避難指示』が発令された。また、大雨により大規模土砂崩れが発生して道路が寸断され、孤立集落が発生した」という想定で、訓練が行われました。

防災無線や消防団等の広報車による避難呼びかけで、避難所の新合総合センターに約150名を超える地域住民が参加、避難しました。合わせて、地域内にある要配慮者施設の避難



避難訓練



避難訓練結果報告

訓練も実施され、それぞれ避難情報の伝達や避難経路の確認が行われました。

避難訓練後は、市危機管理課職員による防災講話が行われ「土砂災害から身を守るためハザードマップで危険地域を確認し、雨が降り出したら、テレビ・ラジオ・防災無線等で防災情報を集め、避難情報が発令されたら迷わず避難する」ことが重要との説明がされました。

講話後には、AED講習、土のう作成訓練、炊き出し訓練等が行われ、災害発生時の対応策を学びました。

土砂災害防災訓練を終えて

閑馬上町会 須藤町会長談

「新合地区は、土砂災害警戒区域が多く存在する地域であり、近年全国各地で発生している大雨による土砂災害に、我が事として捉える必要があると思っています。今回の訓練で、避難経路確認・避難所設営・AED操作など多くのことを学ぶことができ大変良かったです。災害はいつ起こるか分かりませんが、万一の災害に備え、今回の訓練が地域住民の防災意識高揚につながればと考えています」

梅園町 「菜の花プロジェクト」

市の北西部の中山間地域に位置する梅園町会で、地域コミュニティ維持等を目的とする「菜の花プロジェクト」が進められています。



一面の菜の花



採取した種の配布

同プロジェクトは、耕作放棄地増加による景観悪化や鳥獣被害の増加を抑制するため、生命力の強い『菜の花』を栽培することで、「草刈りの労力削減」「猪や鹿等の住処化を防止して農作物の被害抑制」「ごみの不法投棄の防止」に繋がるものとして取り組まれているものです。

今年で6年目を迎えた同プロジェクトは、今では同町会の4割の方が参加する取り組みとなっていて、春に咲き誇った菜の花の種を夏前に採取し、秋に種を蒔く作業を皆で行います。

作付面積も約4haに増加し、今年は「あその学園義務教育学校」の生徒も種取に参加するな

ど、町会を超えた活動となっています。

プロジェクト代表の岩上敏雄さんは「耕作放棄地対策として始まった『菜の花プロジェクト』、今では3月下旬から4月上旬頃まで菜の花の絨毯が広がり、大切な故郷を守る一助になりつつあります。ただ、人手が不足しているため、地域外からもボランティアとして参加していただくと嬉しい」と、プロジェクトの手応えと課題を話してくれました。

地域づくり検討部会報告 (町会の統合・再編)

地域づくり検討部会は、町会課題の調査研究及び解決策の検討をするため、平成26年に設置されました。

部会では、平成29年に全町会を対象に「町会活動に関する実態調査」を実施し、その結果、今後の課題を「町会の統合・再編」とし、検討を始めました。

その後、令和元年東日本台風、新型コロナウイルス感染症により、部会を開催することができませんでした。が、継続して「町会の統合・再編」について調査・検討を行ってきました。

活動を本格的に再開した令和4年度は、引き続き「町会の統合・再編」に取り組み、町会の合併を支援するため、合併後、どのくらいの期間、町会運営交付金を減額することなく

維持すれば、町会運営を支援なく行うことができるかを検討しました。

その結果に基づき部会から提言を受けた市では、令和5年度に、役員の手不足や限界集落の解消を目指し、「統合・再編」をする町会を支援するため『統合・再編後に減額となる町会運営交付金を3年間維持する』特例措置をつくりました。

「統合・再編」を考えている町会は、ぜひ市民生活課(TEL20-3014)にご相談ください。

能登半島地震災害義援金 募金の結果報告とお礼

令和6年1月1日に発生した、最大震度7を観測した「令和6年能登半島地震」では、地震による家屋倒壊、津波、土砂災害、火災などにより甚大な被害が発生しました。このため連合会では、被災地支援のため「能登半島地震災害義援金募金」について、全町会(167町会)に協力をお願いしましたところ、募金総額792万1411円もの浄財が寄せられました。

寄せられた義援金につきましては、日本赤十字社栃木県支部を通じて被災地に送金さ



せていただきました。

また、3月11日に、町会長連合会役員が日本赤十字社栃木県支部佐野市地区長である金子裕佐野市長に面会し、今回の義援金募金の取組についての活動報告をしました。

取りまとめに奔走されました町会長様、並びに多くの市民の皆様に対し、心から感謝とお礼を申し上げ、書面にてご報告とさせていただきます。

佐野市町会長連合会

会長 厚木健志

編集後記

今回の会報では、特に、近年の気象状況の変容による局地的大雨や各地で頻繁に起こる地震による災害を念頭に、市が主催する「防災訓練」が実施されましたので、その内容を掲載いたしました。

市民の方々には、「一読いただき、「対岸の火事」とせず、「命を守り地域を守る」防災意識高揚の一助にしたいだければと思います。(須藤記)

発行 者 佐野市町会長連合会

〒020-8501 栃木県佐野市高砂町1番地

佐野市役所5階

TEL 02863-1851-7000

発行責任者 厚木 健志
編集部会長 須藤 信夫
編集部会員 片柳 孝夫
田村 僚二
齋藤 武男

アドバイザー 齋藤 武男
久村 純二
茂呂 正文
篠原 偉治
八下田謙次

佐野市町会長連合会は市内全域167町会で組織されています。



佐野市町会長連合会情報は「佐野市町会長連合会 Facebook」で発信しています。ご覧ください。